

[成果情報名] 耐倒伏性に優れるふじさんアジサイ有望系統‘26-5’および‘26-8’の育成

[要約] 耐倒伏性に優れるふじさんアジサイ 2 系統を育成した。‘26-5’は装飾花が少ないタイプで、装飾花が大きく、上向きになり、両性花の蕾が大きいため観賞価値が高い。

‘26-8’は装飾花の多いタイプで、花柄の乱れが少なく、花色が白から赤紫色に変化する。

[担当] 山梨県総合農業技術センター・高冷地野菜花き振興センター・花き応用育種科・穴澤拓未

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

花き産地間の競争が激化する中、当センターでは他産地との差別化が可能なオリジナル性の高い商材としてノリウツギに注目し、‘ふじさんアジサイ’として研究を進め、平成 28～29 年に‘あかね’および‘ほくと’の 2 品種を育成した。しかし、‘あかね’は従来品種‘ライムライト’と比較して倒伏しやすいことが生産上の課題となっており、従来品種と同程度の高い耐倒伏性が求められている。本研究では、耐倒伏性の付与や花形の改良などの要望を受けて選抜した系統‘26-5’および‘26-8’について特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 系統‘26-5’の特性

(1) 装飾花が少ないタイプで、装飾花が大きく、上向きになり、両性花の蕾が大きいため観賞価値が高い(図 1)。

(2) 1 株あたりの花茎数は、対照の‘ライムライト’より少ないが、花穂長はやや長い。耐倒伏性が強い(図 3、表 1)。

(3) 観賞適期は 7 月上旬から 8 月上旬頃で、発蕾から両性花の開花する前までが最も観賞価値が高い(図 1、図 4)。

2. 系統‘26-8’の特性

(1) 装飾花が多いタイプで、花柄の乱れが少なく、花色は白色から鮮やかな赤紫色に変化する(図 2、表 1)。

(2) 1 株あたりの花茎数は、対照の‘ライムライト’より少ない。耐倒伏性は‘あかね’より強いが‘ライムライト’ほどではない(図 3、表 1)。

(3) 観賞適期は 8 月下旬から 10 月中旬で、花色変化後の観賞価値が高い(図 2、図 4)。

[成果の活用上の留意点]

1. 花色変化は、気温や紫外線などの気象条件により異なり、標高が高いほど濃い色となる。
2. 剪定時期や栄養条件および気象条件により樹勢や開花期が異なる。
3. 花茎数は、剪定位置を変えることにより確保が可能である。
4. 本試験は総合農業技術センター高冷地野菜花き振興センターほ場(北杜市明野町・標高 747m)において実施した。

[期待される効果]

1. 県オリジナル品種のバリエーションが増えることによりブランド力の向上が期待される。
2. 新たなふじさんアジサイ産地としての基盤強化につながる。

[具体的データ]



図1 ‘26-5’ (開花初期)
(2020年8月2日撮影)



図2 ‘26-8’ (開花終期)
(2020年10月15日撮影)

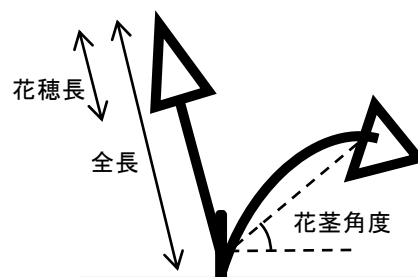


図3 ふじさんアジサイの形質測定部位

表1 露地栽培における特性調査(2021年、定植3年生)

系統 (品種)	耐倒伏性 ^z	開花期 ^y (月/日)	花色変化 始期 ^x (月/日)	全長 (cm)	花穂長 (cm)	花茎数 (本/株)	花色 ^w	
							開花初期	開花終期
26-5	強い	8/22	9/7	111	22	24	黄白	鮮紫ピンク
26-8	やや強い	8/13	9/2	121	23	27	黄白	鮮赤紫
ライムライト (対照)	強い	8/19	9/10	111	19	55	黄白	鮮紫ピンク
あかね (参考)	弱い						黄白	鮮赤紫

^z 開花終期の花茎角度より、耐倒伏性を4段階(強い、やや強い、やや弱い、弱い)で評価。

^y 花穂のうち1/3以上の小花が開花した月日を示す

^x 花穂のうち1/3以上の小花が赤みを帯びた月日を示す

系統(品種)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
26-5	萌芽		発蕾		開花	花色変化	
				観賞適期			
26-8	萌芽		発蕾		開花	花色変化	
					観賞適期		
ライムライト (対照)	萌芽		発蕾		開花	花色変化	
				観賞適期			

図4 生育ステージおよび観賞適期

[その他]

研究課題名：ピラミッドアジサイの新品種育成

予算区分：県単(重点化)

研究期間：2017～2021年度

研究担当者：穴澤拓未、赤池一彦、雨宮圭一、藤木俊也、望月寛徳、渡辺淳